

members' voice

開戦前夜東京湾口の触雷事件顛末

菊池金雄（昭和14年11月特科）

この秘話は半世紀前、太平洋戦争開戦前夜の奇妙な事件であった。それは、日本の貨物船（船名失念）が昭和16年12月7日の深夜、東京湾の入り口で触雷したため、国際遭難電波である500キロサイクルでSOSを発信したことである。

誰も翌日に開戦することなど感知するはずもなく全く不思議なSOSであり、普通なら最寄り海岸局や付近船舶に救助のための情報交換通信が殺到するのであるが、なぜか後続情報がなく尻切れトンボになった。当時、私が乗っていた恵昭丸（大同海運貨物船5800総トン）は横須賀鎮守府所属徴用船で、南洋委任統治の島々にドラム缶入り航空ガソリンの輸送任務を終え横須賀軍港に向け帰航中であった。本船内でも一体日本海軍はどうなっているのか、と不信の声がでた。

翌8日朝、開戦のラジオニュースがあり、本船が横須賀軍港に入港しようとしたら、海軍の内火艇が航路を先導したことは、前夜のうちに機雷による防潜柵が敷設されたものと推測された。

思うに、このSOS電波は米国など外局の無線局でもキャッチされた可能性があり、機密保持上からも遺憾な事件ではなかったろうかと、鮮明に当時のことが想起される。

このことについては自分史「硝煙の海」のホームページ<http://www.geocities.jp/kaneojp/> 第一部の恵昭丸の章で触れているので、どこからか同SOSをキャッチした情報を期待していたが、いまだ何らの関連通報も得られないので、先般JCS（銚

子海岸局）と、JGC（横浜港務部無線局）の当事のOBの方に問い合わせたところ、JCSにはそのころ海軍の情報将校が派遣されており、この種の機密に属する無線情報はただちに封印されたためかこのSOSに関し耳にしたことが無いこと。またJGCのOBの方は、たまたま12月8日の朝、通信当直の引継ぎを受けたが本件のことは引継ぎ事項に含まれていなかったとのことであった。

もしこの事件に関し何か情報をお持ちの方がおられるなら是非下記宛で一報方お願いしたい。

※連絡先
〒983-0045
宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目9-12
電話・FAX：022-293-0324

この旨を目黒会報（電気通信大学同窓会機関誌）等で依頼中のところ、今般下記の情報を入手することができ、永年の懸案が落着いたことは感無量である。

触雷船の船名判明（平成25年1月19日）
情報提供者：五十嵐温彦氏（戦没船事績調査研究者）
出展：林幹司著「大東亜戦争 日本艦船戦時日誌」（源出：横須賀鎮守府SN戦時日誌）
横須賀鎮守府参謀長発～軍令部次長宛通信文
船名 共同丸（C油槽船 船主／鍵富正作）

当該船は昭和16年12月7日 2320 観音崎灯台162度 3.5裡に機械室右舷前部に触雷。右舷機が故障したが浸水は少量で人員に異常なし。

補足情報

この共同丸は昭和19年10月25日スルー海で私が乗り組んだ昭豊丸が米機に爆沈されたとき救出してくれた船で、意外な接点に驚愕するとともに、往時を彷彿させられる…とにかく共同丸に移乗…すぐ入浴、同時に衣類を水洗いして、私は無線局長室で休息させていただいた恩義が去来するばかりである。

関連URL：
<http://www.ric.hi-ho.ne.jp/senbotusen/siryo-deta/kogatasenpyousen.htm>

共同丸はその後マニラ経由で昭和20年1月6日リンガエン湾において、アメリカ第38任務部隊搭載機の爆撃を受けて沈没し船員10名が死亡、とのことで、切に戦没者各位のご冥福を念ずる。

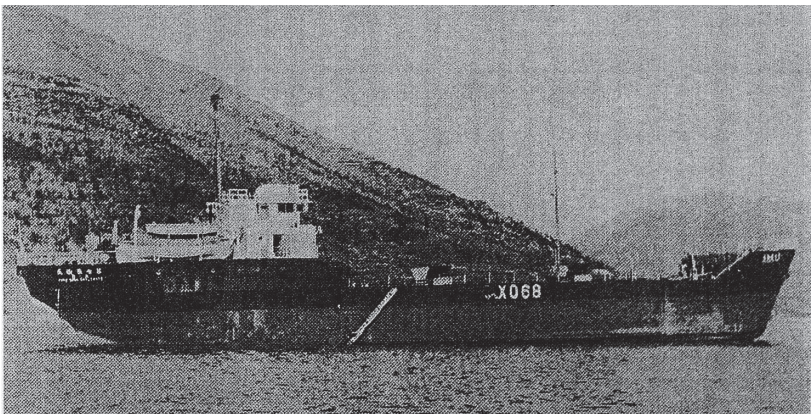
情報提供者への謝辞

本事案については永年情報収集につとめ、船名不詳の船が機雷堰で推進器に絡網の件だけはキャッチしていたが、今回、具体的に船名までも把握できたことは長生き冥利で、五十嵐様に厚く御礼申し上げます。



共同丸写真

出展：柏崎市立図書館所蔵 小竹コレクション



出展：平和汽船（ex近海油槽船）第七東油丸（2ET）「五十年の歩み」より